

研究代表者 所属・職：経済学部・准教授

氏 名：吉田 直美

研究課題名：美浜町布土学区を中心とした地域防災活動を普及するための取り組み
～災害時要援護者の避難問題に焦点を当てて～

研究の目的

本研究の目的は、災害時要援護者の避難問題と防災教育の視点をもって、「住民が積極的に関わる仕組みづくり」となる布土学区の地区防災計画の立案と実施について支援することに取り組み、地域の防災力の底上げをすることである。

プロジェクト目標の達成状況・成果内容

- ①布土学区自主防災会との協力体制のもと、2016年度の地区防災活動を支援。
 - ・防災訓練・避難訓練のプログラム内容についての検討に参加した。
 - ・地区住民を対象とした地震災害対策のための講演会を、町の防災安全課の協力を得て実施した。
- ②自主防災会と布土学区地区防災計画の立案・作成をした。
 - ・自主防災会役員メンバーを対象とした「突然シュミレーション」を実施し、その結果を討論することで、地区防災計画のたたき台を作成していった。
- ③あぜーりあ祭りに出店（社会福祉法人みはま会）で本学学生も参加した啓蒙活動の実施した。
 - ・布土学区住民向けの防災クイズの実施
 - ・防災グッズの展示&体験コーナー（本学学生）
 - ・防災アンケートの実施→ 地区の防災訓練の日に住民に分析結果を報告
 - ・美浜町の防災リスクについてのペーパーの配布
- ④日本福祉大学 防災研究会のHPの作成
 - ・布土学区での防災活動の支援手法等を発信するため

優れた成果があがった点

- ①地区住民、小学校保護者、組長を対象として行った防災アンケートの分析結果を、地区防災訓練時の講演会、自主防災会の研修、そして小学校にて報告するという作業を繰り返し、当事者である住民へのフィードバックが徹底できたことから、「いっとき避難所」の場所を再検討、指定できたこと、住民の懸念や実情を踏まえた地区防災計画の作成ができたこと。
- ②住民である自主防災会役員に「突然シュミレーション」を経験してもらったり、実際に危険箇所を回ってもらったり、われわれ研究者メンバーとの討論を繰り返す中で、自主防災会からの積極的な提案をもとにした地区防災計画案を作成できたこと。
- ③「なんでもボランティア（仮称という、地区住民の新しい助け合いの仕組みを、自主防災会が考えて、地区住民に呼びかけるようになったこと。

研究期間終了後の今後の展望

引き続き、2017年度も布土学区自主防災会と協力し、より多くの住民に参加してもらえる地区防災訓練、避難訓練のプログラムを検討していく。また、学区自主防災会の運動としての耐震診断、家具固定化運動、家族防災会議開催運動等をなどが展開できるように話し合いを進めていく予定である。更に、情報発信の場として、現在試験的に立ち上げたHPの他、「布土学区ぼうさい新聞」を発刊することについても、提案していきたい。